

報告事項

2019 年度
事業報告書

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本補助犬協会

2019年度は、「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」開催を契機に、ユニバーサルデザイン社会を創設し、東京大会のレガシーとする」よう当協会も各省庁および各方面の団体と提携し活動を行ってきた。しかし、新型コロナウイルスの蔓延で「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」は延期となり、また、世界規模で人・物の移動が滞り、社会活動が停止する事態となった。当協会の活動も例外ではなく、2020年3月以降予定されていた活動が中止となり、年度末に想定していた収入が得られず、協会運営に大きな影響を受けることとなった。

補助犬育成関係では、本年度も都道府県委託給付事業対象者を中心に補助犬貸与を行った。今後の課題として、給付事業対象外の障害等級希望者に対する貸与、さらに、給付事業を行っていない、または、給付頭数の少ない県域在住の希望者に対する貸与が行えるよう、財政基盤を整えることが急務である。

また、「第7回もっと知って補助犬キャンペーン」を開催し、補助犬受け入れ拒否問題をはじめ様々な課題解決に取り組んだが、今後も息の長い地道な活動を続けることにより、少しずつ社会の理解を深めていかなければならない。

◆ 公益事業実施状況

補助犬育成・貸与・認定事業

1. 補助犬(及び候補犬)の育成・認定及び貸与

次のとおり、補助犬7頭の育成・認定を行い希望する身体障害者に貸与した。

1) 当協会が育成・認定した補助犬

- 盲導犬 1頭(神奈川)
- 介助犬 2頭(岩手1頭、東京1頭)
- 聴導犬 1頭(神奈川)

2) 他団体が育成し当協会が認定した補助犬

- 介助犬 3頭(奈良1頭、大阪1頭、京都1頭)

3) 身体障害者補助犬認定審査会開催状況

次のとおり3回開催した。

- | | | | |
|-----------|------|----|---------------|
| 令和元年12月1日 | 認定頭数 | 1頭 | (介助犬1頭) |
| 令和2年3月8日 | 認定頭数 | 2頭 | (介助犬1頭、聴導犬1頭) |
| 令和2年3月15日 | 認定頭数 | 3頭 | (介助犬3頭) |

2. 補助犬ユーザー(使用者)に対するフォローアップ

補助犬ユーザーと補助犬の生活の質及び補助犬作業の質の向上を図るため、次のとおりフォローアップ及び研修会を行った。

1) フォローアップ

- ・全補助犬ユーザーからの定期報告書および補助犬健康診断書の提出(4月～5月)
- ・盲導犬ユーザーに対するフォローアップ
来所・訪問 13人 延べ30日

- 電話・メール 16人 71回
- ・ 介助犬ユーザーに対するフォローアップ
 - 来所・訪問 11人 延べ28日
 - 電話・メール 12人 54回
- ・ 聴導犬ユーザーに対するフォローアップ
 - 来所・訪問 10人 延べ22日
 - メール・FAX 14人 70回

2) ユーザー研修会の開催

開催日 11月23日～24日

参加者数 ユーザー7名(補助犬7頭)、家族・ボランティア5名

- 内容
- ・ボランティア講師による目の不自由な人が使用して便利なスマホアプリの紹介。スマホ基本操作の講習。
 - ・基本訓練その他の作業動作の正確性、確実性を高めるための実技講習

3) 補助犬希望者の相談業務

- ・盲導犬希望者の相談 2人 延べ6回
- ・介助犬希望者の相談 4人 延べ10回
- ・聴導犬希望者の相談 2人 延べ12回

3. 補助犬候補犬の導入並びに繁殖、関連事項

1) 補助犬候補犬、繁殖犬導入

姉妹校提携を結んでいる海外の盲導犬協会と、補助犬候補犬・繁殖犬の安定的かつ円滑な導入を図るため、新たに5ヵ年契約を締結した。

2) 聴導犬候補犬確保のための他団体からの導入

国内の補助犬育成団体より1頭のパピーを導入した。

4. パピーの育成

将来補助犬になり得る仔犬の飼育をパピーファミリー(仔犬飼育ボランティア)に委託した。また、「社会化」と「月齢に応じたきめ細かいしつけ方」についてパピーの発達段階毎のサポートを行った。

・ 委託状況

3頭 (チワワ1頭、スタンダード・プードル1頭、イングリッシュ・コッカー・スパニエル1頭)

・ サポート方法

電話、メール、しつけ教室の開催、訪問等

- 電話・メール相談 23回
- しつけ教室の開催 4回
- 訪問 1回

5. 引退犬の支援

13頭の引退犬に対して協会医療室にて健康管理をサポートすると同時に引退犬ボランティアに対して老犬に対する飼育相談等を行った。

- ・医療室の利用 11件
- ・訪問 2回
- ・電話・メール相談 39回
- ・医療費支援
- ・介護用品の貸し出し
- ・

6. 職員の養成

訓練士等に対し、日々のOJTとともに月2回の手話教室や補助犬ガイド士の受講、同行援護従事者養成講座の受講等により技術、知識の向上を図った。

補助犬啓発関係

1. 「第7回もっと知って補助犬キャンペーン」

補助犬ユーザー団体、各種企業・団体の協力のもと、次のイベントを開催し、補助犬の認知度向上に努めた。

- ・期間 令和元年10月1日～令和元年12月31日
- ・テーマ ～「誰一人取り残さない」社会を目指して～

1) 第4回「補助犬フォーラム」開催

日時 令和元年12月20日(金)10:00～16:30

会場 衆議院第一議員会館 多目的ホール

内容 プログラム1「心のバリアフリー検定」

プログラム2「補助犬シンポジウム」

第一部 障がい者の困りごとを知る～補助犬ユーザーの立場から～

第二部 障がい体験ワークショップ

第三部 パネルディスカッション

テーマ「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の補助犬ユーザー及び補助犬への対応」

2) 企業等における取り組み

◇ 次の企業で心のバリアフリー勉強会を実施した。

- ・トヨタ自動車株式会社（令和元年10月11日）
- ・ベーリンガーインゲルハイム(令和元年12月10日)

◇ 次の企業と連携して交通機関におけるバリアフリー検証を行った。

- ・トヨタ自動車株式会社（令和元年11月12日）

3) 学校教育における取り組み

次の学校等において、オリンピック・パラリンピック推進教育及び「心のバリアフリー」普及を目的とした補助犬介在授業を実施した。

- ・市原学園(令和元年11月7日、11月21日)
- ・北区立第四岩淵小学校(令和元年11月11日)
- ・八王子市立清水小学校(令和元年11月21日)
- ・稲城市立第三中学校(令和元年11月28日)

- ・ 北区立田端小学校(令和元年 11 月 30 日)
- ・ 東京都立科学技術高校(令和元年 12 月 19 日)

4) 一般市民を対象とする取り組み

次のイベントにおいて補助犬啓発活動を行った。

- ・ 旭区民まつり(令和元年 10 月 20 日)
- ・ イオンペットフェス(令和元年 11 月 2 日、11 月 3 日)
- ・ 足立区生物園わんフェス(令和元年 11 月 3 日)
- ・ 上尾市民まつり(令和元年 11 月 9 日)
- ・ 南足柄市社会福祉大会(令和元年 11 月 16 日)
- ・ 三井化学ファミリーデー (令和元年 11 月 17 日)
- ・ 船橋市障害者週間イベント(令和元年 11 月 23 日)
- ・ 神奈川県人権メッセージ展(令和元年 12 月 8 日)
- ・ 墨田区すまいるフェスタ(令和元年 12 月 8 日)

5) 障害当事者及び支援団体としての取り組み

次の場所において障害当事者講師養成講座を開催し、合計 10 名の補助犬ユーザーが参加した。

- ・ 横浜訓練センター(令和元年 11 月 24 日)
- ・ 衆議院議員会館(令和元年 12 月 20 日)

6) 緊急・災害時への取り組み

2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の補助犬ユーザー及び補助犬の支援を目的とした「緊急対応ガイドライン」を東京都医師会及び東京都獣医師会との共同で作成した。

2. 「補助犬ガイド士養成講座」に係る検定・勉強会の実施

1) 「心のバリアフリー勉強会」の開催

次の団体・会社において「心のバリアフリー勉強会」を開催した。

- ・ 団体名 防衛省
開催日 令和元年 7 月 25 日
受講者 120 名
- ・ 企業名 全国銀行協会
開催日 令和元年 9 月 26 日
受講者 100 名
- ・ 企業名 トヨタ自動車株式会社【再掲】
開催日 令和元年 10 月 11 日
受講者 150 名
- ・ 企業名 ベーリンガーインゲルハイム【再掲】
開催日 令和元年 12 月 11 日
受講者 60 名
- ・ 企業名 テクノエイド協会
開催日 令和 2 年 1 月 17 日

受講者 100 名

2)「心のバリアフリー検定」の開催

次の会場において「心のバリアフリー検定」を開催した。

- ・ 会 場 衆議院第一議員会館
開催日 令和元年 7 月 9 日
受講者 23 名
- ・ 会 場 市原学園【再掲】
開催日 令和元年 11 月 21 日
受講者 20 名
- ・ 会 場 衆議院第一議員会館【再掲】
開催日 令和元年 12 月 20 日
受講者 72 名
- ・ 会 場 イオンペット株式会社
開催日 令和 2 年 2 月 19 日
受講者 52 名
- ・ 会 場 市原学園
開催日 令和 2 年 2 月 27 日
受講者 20 名

3. 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた補助犬受入体制の確立推進

1) 障害当事者講師の養成【再掲】

「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」の指針に則って、当事者講師となる補助犬ユーザーの養成を行った。

日 時 令和元年 11 月 24 日、12 月 20 日

参加者 10 名

内 容 「心のバリアフリー検定」受講

※ 全員が合格した。

2) 「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会での補助犬を同伴した人及び補助犬の支援を目的としたガイドライン」の作成【再掲】

東京都医師会、東京都獣医師会と連携し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた補助犬ユーザー及び補助犬の救急時の対応等に関するガイドラインを作成した。

3) 東京都オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業への参画

当事業のプログラムの一環として、次の 10 校で「ほじょ犬セミナー」を実施した。

- ・ 北区立第四岩淵小学校(令和元年 11 月 11 日)【再掲】
- ・ 八王子市立清水小学校(令和元年 11 月 21 日)【再掲】
- ・ 稲城市立第三中学校(令和元年 11 月 28 日)【再掲】
- ・ 北区立田端小学校(令和元年 11 月 30 日)【再掲】
- ・ 東京都立科学技術高校(令和元年 12 月 19 日)【再掲】
- ・ 品川区立鮫浜小学校(令和 2 年 1 月 27 日)

- ・ 豊島区立高南小学校(令和2年2月3日)
- ・ 北区立滝野川もみじ小学校(令和2年2月7日)
- ・ 豊島区立池袋第三小学校(令和2年2月8日)
- ・ 台東区立田原幼稚園(令和2年2月17日)

4. 共生社会の実現への取り組み

法務省「少年院における動物介在活動に関するガイドライン」策定外部アドバイザーとして、市原学園にて補助犬介在授業および心のバリアフリー授業を実施した。【再掲】

- ・ 第1回 前半「身体障害者補助犬及び接遇研修」

実施日 令和元年11月7日

受講者 20名

後半「心のバリアフリー検定」

実施日 令和元年11月21日

受講者 20名

- ・ 第2回 前半「身体障害者補助犬及び接遇研修」

実施日 令和2年2月4日

受講者 20名

後半「心のバリアフリー検定」

実施日 令和2年2月27日

受講者 20名

5. パンフレット・会報の作成・配布

当協会の組織概要・事業実施状況等に関する情報を発信することにより知名度の向上、支援者の発掘等を図るためパンフレット等を作成・配布した。

- ・ パンフレットの配布

当協会のサポーター制度・寄付金の使途等に関するパンフレットをイベント等で配布した。

- ・ 会報の作成・配布

当協会の活動状況等について報告することにより、賛助会員及び募金箱設置の継続率向上、ひいては運営費の安定供給を図るため、会報「にっぽけん通信」第19号を7,000部作成し、賛助会員、募金箱設置店、協力企業・団体に送付した。

6. SNSの充実・活用

ホームページの他、Facebookでは協会の活動を中心に掲載した。また、新たにInstagramを活用し、補助犬の日常生活の一コマを中心に写真・動画を掲載し身近な存在として補助犬を理解してもらえるよう情報発信の充実に努めた。

子供の情操教育活動

東日本大震災被災地の小・中学校を中心に、東北地方の介助犬ユーザー、ボランティアが次の場所を訪問した。

- ・花巻市立図書館(令和元年4月28日)
- ・岩手県立紫波高等学校(令和元年7月16日)
- ・盛岡市立青山小学校(令和元年7月24日)
- ・ふれあいランド岩手(令和元年9月1日)
- ・盛岡市立福祉会館(令和元年9月8日)
- ・盛岡市立山岸小学校(令和元年9月18日)
- ・馬っこパークいわて(令和元年9月23日)
- ・盛岡市立本宮小学校(令和元年9月25日)
- ・盛岡医療福祉専門学校(令和元年11月8日)
- ・介護の日フェア(令和元年11月10日)
- ・岩手県立杜陵高等学校(令和元年11月12日)
- ・金ヶ崎町立永岡小学校(令和元年11月13日)
- ・紫波町立日詰小学校(令和元年11月15日)
- ・一関市川崎公民館(令和元年12月1日)
- ・岩手県立杜陵高等学校(令和元年12月13日)

運営上の課題解決に向けた取り組み

経営会議の開催

円滑な組織運営を推進するため経営会議を11回開催した。

- ・開催日 平成31年4月29日、令和元年5月10日、令和元年5月30日、令和元年6月6日、令和元年7月18日、令和元年9月25日、令和元年10月4日、令和元年11月5日、令和2年1月23日、令和2年2月20日、令和2年3月25日

その他

1. 横浜市との連携

横浜市動物愛護センターを活用した「聴導犬育成プログラム」を「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として協議会に提案した。

2. 「古本チャリティー募金」の開始

サポーター会員等の家庭や支援企業のオフィス内で不要となった書籍等を寄付していただき、それを換価する「古本チャリティー募金」を開始した。

3. 日本ヒルズコルゲート株式会社との契約締結

日本ヒルズコルゲート株式会社様と社員派遣および協会在所犬のドッグフード提供に関する契約を締結した。

◆ 収益事業実施状況

商品販売事業

1. 補助犬チャリティー商品の制作・販売

ボランティアの協力を得て補助犬チャリティー商品を作成し、イベント等で販売した。
また、3月より、ホームページを利用したオンライン通販を開始した。
売上金額 1,964,516 円

2. 自動販売機設置

訓練センターに設置した自動販売機の売り上げに対する手数料収入及び募金型自動販売機からの収入を得た。

収入金額 3,111 円

【参考】

◇ 理事会開催状況

開催年月日	主な決議事項
令和元年6月13日	平成29年度事業報告及び収支決算書の承認について
令和2年3月10日	2020年次事業計画書及び収支予算書の承認について

◇ 評議員会開催状況

開催年月日	主な決議事項
令和元年6月27日	平成30年度事業報告及び収支決算書承認について

◇ 職員に関する事項

令和2年3月31日現在職員在籍状況(理事を含む) (単位 人)

部署	職種	常勤			非常勤			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
管理部門	総務・経理	1	2	3	0	2	2	1	4	5
補助犬育成・ 訓練部門	指導員	0	2	2	0	0	0	0	2	2
	訓練士	1	0	1	0	0	0	1	0	1
	ケネル・研修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	獣医師・トリマー	0	0	0	1	1	2	1	1	2
企画推進部門	企画・事業推進	1	1	2	0	0	0	1	1	2
普及啓発部門	広報・啓発	1	0	1	0	0	0	1	0	1
計		4	5	9	1	3	4	5	8	13

注) 業務委託、派遣社員含む

◇ 施設の状況

1) 所在地

横浜市旭区矢指町 1954 番地 1~2

2) 敷地面積 (単位 m²)

訓練センター	955.64
認定試験センター	498.50
計	1454.14

3) 建物

(単位 m²)

区分	構造	延床面積	主な施設
訓練センター	木造2階建て	497.70	事務室、ミーティングルーム、ケネル、ブリーディングルーム、グルーミングルーム。共同訓練用居室(4室)、食堂、厨房、浴室、多目的ルーム
認定試験センター	木造平屋建て	188.79	犬用医療室、グルーミングルーム、多目的ルーム